

関東地整工事で採用
SEC機械協会

SECコンクリート
機械協会(伊藤祐二会
長)は15日、東京・市ヶ
谷のグランドヒル市ヶ
谷で通常総会を開いた。

開会のあいさつに
立った伊藤会長は、入



伊藤会長

札時の技術提案でSEC
Cコンクリートが採用
されるケースが増えて
いるとし、その要因に
ついて「生コン工場の
バッチャープラント制
御がパソコンを中心と
したシステムに変更さ
れたことで、練混ぜセ
ンフトを改造するだけ

SEC練混ぜができる
よくなったことが追
い風となっている」と
述べた。SECコンク
リートはNATM工法
の吹付けコンクリート
として多くの採用実績
がある。

また、伊藤会長は「今
年度は関東地方整備局
でも適用工事が始ま
る。材料分離抵抗性や
ポンプ圧送性、振動下
の充填性など施工性能
の向上、強度やひび割
れ抵抗性、耐久性など
のSECコンクリートの
特性を活かして、良
質な構造物が構築され
ることを期待してい
る」とまとめた。

総会では、協会賞の
表彰のほか、東京工業
大学の坂井悦郎教授が
「コンクリート構造物
の高耐久化とセメント
系材料」の題で講演し
た(3面に詳細掲載)。

SEC特別 総演説

「CO₂削減ポイントに」

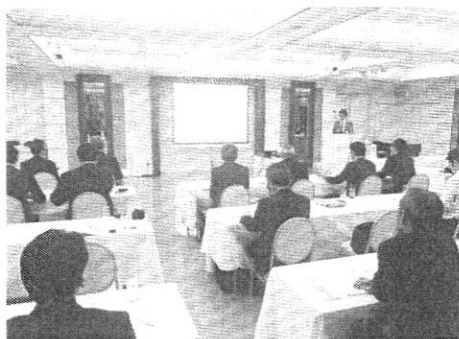
坂井氏 低炭素化技術を解説



坂井教授

SECコンクリート
機械協会(伊藤祐二会
長)が15日に開いた通
常総会で、東京工業大
学の坂井悦郎教授が
「コンクリート構造物
の高耐久化とセメント
系材料」をテーマに講
演した。セメント・コ
ンクリートの低炭素化
技術への取組みや高耐
久・高性能コンクリー
トに関する検討などに
ついて解説した。

坂井氏は講演の冒



頭、セメント・コンク
リートを取り巻く環境
について触れ、「高耐久
化」と「低炭素化」を
ポイントに挙げた。低
炭素化促進法(都市の
低炭素化の促進に関す
る法律)などで建築物
にも低炭素化が求めら

れるようになってい
る。鉄筋コンクリート
構造物建設における二
酸化炭素(CO₂)の
排出量は材料由来す
るものが8割程度を占
めているとしたうえ
で、「材料由来のCO₂
削減と長期耐久性・超

技術課題の検討結果を紹介した

寿命化によるライフサ
イクルCO₂削減が
鉄筋コンク
リート構造
物開発のポ
イントにな
ると指摘
した。

低炭素化
技術への取
技術的課題として廃棄

組みとして、セメント
メーカー4社(太平洋
セメント、住友大阪セ
メント、宇部興産、三
菱マテリアル)が経済
産業省の補助事業とし
て技術開発を進めてい
る「革新的セメント製
造プロセス基盤技術開
発」や「エネルギー・
CO₂ミニマム(EMC
M)セメント・コンク
リートシステム」など
を紹介した。

坂井氏は低炭素化を
図るには高炉スラグ微
粉末やフライアッシュ
などの混合材をこれま
で以上に活用する必要
があるとする一方で、
技術的課題として廃棄